

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	公立小松大学
設置者名	公立大学法人公立小松大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
生産システム科学部	生産システム科学科	夜・通信	5	0	8	13	13	
保健医療学部	看護学科	夜・通信	7	0	6	13	13	
	臨床工学科	夜・通信	4	0	9	13	13	
国際文化交流学部	国際文化交流学科	夜・通信	4	0	10	14	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

インターネット（本学ホームページ） https://www.komatsu-u.ac.jp/disclosure/ed-information/#
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	公立小松大学
設置者名	公立大学法人公立小松大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

インターネット（本学ホームページ） https://www.komatsu-u.ac.jp/disclosure/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	小松商工会議所会頭	2024.4.1 ～ 2026.3.31	理事 (産業界連携担当)
非常勤	株式会社 Bizits パート ナース代表取締役会長	2024.4.1 ～ 2026.3.31	理事 (NextStage 担当)
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	公立小松大学
設置者名	公立大学法人公立小松大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
今年度開講する全授業についてシラバスを作成し、年度当初に公表している。公表内容は次の通り。 シラバス掲載内容 ・到達目標 ・授業の概要 ・使用テキスト ・参考図書 ・授業内容 ・事前・事後学習 ・評価方法 ・履修上の注意 ・実務経験の有無 ・実務経験と授業科目の関連性 シラバス公表場所 本学ホームページ	
授業計画書の公表方法	インターネット（本学ホームページ） https://unipa.komatsu-u.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

シラバスに掲載された評価方法のとおり、授業科目の学修成果の評価を行い、これに基づき、単位の授与を行っている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価の客観的指標として、GPA制度を取り入れている。

成績の各評価に与えられるGPは、以下のとおり定めている。

グレード・ポイント (GP)	評価 (表示)	点数
4.0	S	90 点以上
3.0	A	80 点以上
2.0	B	70 点以上
1.0	C	60 点以上
0.0	D (不可)	59 点以下
0.0	保留※	—
対象外	合	—
対象外	認定	—

※「保留」は当該学期以降に評価変更された際、その評価のGPとなる。

【GPAを算出する計算式】

$$\text{GPA} = \frac{\text{各成績評価科目の (グレード・ポイント} \times \text{単位数) の合計}}{\text{履修登録科目単位数の合計}}$$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

インターネット (本学ホームページ)
https://www.komatsu-u.ac.jp/common/images/other_risyu_annai_2025.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学部ごとに、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、本学ホームページで公表の上、適切に実施し、令和 6 年度においては、231 名の卒業生を輩出した。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

インターネット（本学ホームページ）
<https://www.komatsu-u.ac.jp/about/policy/>

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	公立小松大学
設置者名	公立大学法人公立小松大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	インターネット（本学ホームページ） https://www.komatsu-u.ac.jp/disclosure/others/
収支計算書又は損益計算書	インターネット（本学ホームページ） https://www.komatsu-u.ac.jp/disclosure/others/
財産目録	—
事業報告書	インターネット（本学ホームページ） https://www.komatsu-u.ac.jp/disclosure/others/
監事による監査報告（書）	インターネット（本学ホームページ） https://www.komatsu-u.ac.jp/disclosure/others/

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：_____）	対象年度：_____）
公表方法：_____	
中長期計画（名称：_____）	対象年度：_____）
公表方法：_____	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：インターネット（本学ホームページ）
<https://www.komatsu-u.ac.jp/disclosure/midterm-target/>

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法：インターネット（本学ホームページ）
<https://www.komatsu-u.ac.jp/disclosure/midterm-target/>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 生産システム科学部 生産システム科学科
教育研究上の目的（公表方法：インターネット（本学ホームページ）） https://www.komatsu-u.ac.jp/about/introduction/
（概要） 大学の教育研究上の目的(学則第 1 条) 公立小松大学は、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究することにより、地域と世界で活躍する人間性豊かなグローバル人材を育成するとともに、地域との共創による教育研究を通じ、地域への貢献と社会の発展に寄与することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：インターネット（本学ホームページ）） https://www.komatsu-u.ac.jp/system/policy/#diploma
（概要） 本学科の養成する人材像に基づき、地方と世界の持続可能な社会システム実現のため、以下の項目に挙げる学科共通及び各コースで教授する個別の専門能力を身につけた者を、環境と社会に調和する生産システムを構築できる人材とみなし、学士（工学）を授与する。 ○幅広い分野の教養を身につけるとともに、工学や科学の基礎として重要な数学・物理学についての基礎的能力を有する。 ○ものづくり産業技術の基盤となる機械工学、電気・電子工学、情報工学の基礎的及び専門的な知識を習得している。 ○専門分野の技能を身に付け、修得した知識・技能を組み合わせ実践的に課題の解決に取り組むことができる。 ○生産システムが果たす役割・使命を理解し、高い倫理観を備え、自然及び社会と共生するための仕組み構築に向けた知識を習得している。 ○研究を推進するための、自主性、協調性、思考力、文章作成能力、発表・報告能力および国際的コミュニケーション能力を身につけている。 【生産機械コース】 機械工学、電気・電子工学、情報工学の基礎を身に付け、環境にやさしい生産システムを実現するための科学的思考力と基礎的实践能力を修得している。 【知能機械コース】 機械工学、電気・電子工学、情報工学の基礎を身に付け、高度情報化社会に適応した生産システムを実現するための科学的思考力と基礎的实践能力を修得している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：インターネット（本学ホームページ）） https://www.komatsu-u.ac.jp/system/policy/#curriculum
（概要） 現代社会の喫緊の課題である持続可能な社会システムを実現するためにも、ものづくり技術の基幹である機械工学と、電気・電子・情報工学の諸技術を有機的かつ体系的に修得させることが求められる。本学科の学生には、これらの諸技術を多彩に運用し、環境と社会に調和する新しい生産システム構築に向けて、地域社会と世界の持続的発展に貢献できる人材を育成するためのカリキュラム構成とする。

- 工学や科学の基礎となる数学・物理学の応用力を修得する
- 機械工学、電気・電子工学、情報工学を有機的かつ体系的に修得する
- 諸技術を多彩に運用し、環境と社会に調和する新しい生産システム構築に向けて、地域社会と世界の持続的発展のための課題探求能力を修得する
- 地域社会と世界の持続的発展のためのコミュニケーション能力を修得する

成績評価は、各科目の到達目標に基づいて、厳格に行う。各科目の学修成果は、定期試験、中間試験、レポート、発表等で評価することとし、その評価方法の詳細については、授業内容の詳細とあわせてシラバスに記載する。科目によっては、実習先等の成績を参考に成績評価を行うことがある。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：インターネット（本学ホームページ））
<https://www.komatsu-u.ac.jp/system/policy/#admission>

（概要）

【求める学生像】

本学科の教育理念及び教育目標に共感し、地域と世界の産業に貢献しようとする次のような学生を求める。

（知識・技能）

1. 数学、物理など、ものづくりの仕組みを理解できる基礎学力を有し、機械、電気、電子、情報に関する知識や仕組みについて高い関心をもつ人

（思考力・判断力・表現力）

2. サステイナブル（持続可能な）社会の実現を目指し、未来の生産システムの構築に強い意欲をもって取り組める人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

3. 豊かな教養と幅広い人間性を備え、地域社会の持続的発展に誇りと喜びを持って貢献できる人

【入学までに身につけておいてほしいこと】

1. 高等学校の教育課程で学ぶ諸科目に関する基礎学力

高等学校の教育課程で学ぶ数学と物理の知識は、科学的小および工学的な視点で現象を理解するために必須である。また、論理的に思考し、実験レポートや報告書を記述するための日本語力、国際的な視野で考え行動するために英語力が重要である。

2. 自ら問題を発見し、問題を解決する習慣

社会における様々な事象について、自ら問題を発掘・発見し、その問題を解決する姿勢や習慣が必要である。そのためには、生涯の自己研鑽が必要で、自ら進んで学ぶ習慣を身につけることが重要である。

3. 他者と連携・協働し、誠実に取り組む姿勢

通常、実験や実習は、複数人のチームで行うため、他者（共同実験者）と連携・協働して行う実践力および誠実に取り組む姿勢を身につけることが重要である。

【入学者選抜の方針】

[一般選抜（前期日程）]

1) 大学入学共通テストでは、5教科（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語）6科目を課し、基礎学力を評価する。

2) 個別試験では、数学および理科を課し、理系の基礎学力を確認する。

[一般選抜（中期日程）]

1) 大学入学共通テストでは、3 教科（数学、理科、外国語）4 科目を課し、基礎学力を評価する。 2) 個別試験では、理科（物理基礎・物理）を課し、基礎学力を確認する。 [学校推薦型選抜（地域推薦）] 1) 個人面接によって、数学、理科の基礎的な試問を含む多面的な質問を行い、勉学意欲と資質を評価する。調査書、推薦書、志願理由書は、面接試験の参考にする。 [学校推薦型選抜（一般推薦）] 1) 大学入学共通テストでは、2 教科（数学、理科）3 科目を課し、基礎学力を評価する。 2) 個人面接によって、多面的な質問を行い、勉学意欲と資質を評価する。調査書、推薦書、志願理由書は、面接試験の参考にする。

学部等名 保健医療学部 看護学科
教育研究上の目的（公表方法：インターネット（本学ホームページ）） https://www.komatsu-u.ac.jp/about/introduction/
（概要） 大学の教育研究上の目的(学則第 1 条) 公立小松大学は、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究することにより、地域と世界で活躍する人間性豊かなグローバル人材を育成するとともに、地域との共創による教育研究を通じ、地域への貢献と社会の発展に寄与することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：インターネット（本学ホームページ）） https://www.komatsu-u.ac.jp/medical/kango/policy/#diploma
（概要） 卒業までに所定の単位を取得し、本学科の養成する人材像の実現に必要な次の知識、能力を修得した者に、学士（看護学）を授与する。具体的な能力は次のとおりである。 ○看護を必要とする対象に望むケアを提供するための基本的知識、技術、態度を有している。 ○少子、高齢化、認知症、生活習慣病など今後進行する看護課題について理解している。 ○病を抱える人、老いを生きる人の心身の痛みに共感するための感性・教養・倫理観を有している。 ○南加賀地域の健康課題を理解し、看護師に求められる素養と役割を理解している。 ○様々な段階の看護対象に対し、適切な看護ケアを提供できる専門知識、技術、態度を有している。 ○他の医療専門職業人と共同するための協調性、能力を身につけ、地域包括ケアシステム構築に向けて積極的に取り組むことができる。 ○看護ケアの課題解決のための具体的な専門知識や能力を有している。 ○人種・地域の違いに臆することなく看護の専門性を発揮できる心と意欲を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：インターネット（本学ホームページ）） https://www.komatsu-u.ac.jp/medical/kango/policy/#curriculum

(概要)

学科の教育課程を教育目的に応じて6つのステージに分け、段階的に実施していく。まず、学生が他学部・他学科の学生と共に幅広い教養を身につけ(1年次)、6つのステージに分けられた看護専門領域を、「人の身体と心を知るステージ」(1年次)→「人の健康問題を考えるステージ」(1・2年次)→「看護とは何かを理解するステージ」(1・2・3年次)→「看護ケア能力を育てるステージ」(2・3年次)→「看護ケア能力を拡げるステージ」(2・3・4年次)→「看護の未来を共創するステージ」(4年次)と、段階的に学修していくことが見える化できるように教育課程を編成し、看護師に求められる基礎力、応用力等を育成できる科目編成としている。

各ステージにおける詳細な教育実践については、教育段階の順に次のとおり取り組んでいく。

<人の身体と心を知るステージ>

看護の対象となる「人」の身体と心を知ることを本学科の導入ステージとし、看護学を学ぶ上で基礎となる科目を配置する。「解剖学」「生理学」「病理学」「感染免疫学」「栄養・生化学」「薬理学」「心の健康とストレスマネジメント論」の全7科目はいずれも必修科目とする。また、看護師と臨床工学士の将来的な協働チーム形成をめざして、「栄養・生化学」と「心の健康とストレスマネジメント論」を除く5科目については、臨床工学科との連携科目とする。(開講年次：1年)

<人の健康問題を考えるステージ>

看護の対象になることが圧倒的に多いのは身体的・精神的・社会的健康問題を抱える人である。「人の健康問題を考える」ステージでは、疾病・治療論等の臨床医学に関する理解を深める科目を1、2年次に配置し、顕在的ならびに潜在的に最重要健康問題である生活習慣病、メンタルヘルス不調、認知症に関して看護ケアを提供するための知識・能力を育成する。

<看護とは何かを理解するステージ>

1、2年次を中心に、主に基礎看護学の科目を配置し、根拠に基づき看護を計画的に実践する基礎能力を育成する。小松市を中心とした地域住民の健康に係る実態を把握するために「市民健康論」を設け、地域において将来的にどのような役割が看護師に求められているのかを理解し、学修意欲を高める。さらに、看護師として、人の心の健康の保持・増進や、病を持つ人が回復していく過程で、その人らしさを取り戻して生活していくケアの実践は、領域を問わず必要となる能力であるため、精神保健看護学に係る科目を他の看護領域より早い時期で開講し、「看護倫理」、「看護の品格育成論」の科目とあわせて、ヒューマンケアの基本に関する実践能力を育成する。

<看護ケア能力を育てるステージ>

「人の身体と心を知るステージ」「人の健康問題を考えるステージ」「看護とは何かを考えるステージ」において、看護することの全体像を学生に描かせた後、特定の健康課題に対して、看護ケアが提供できる実践能力を育成するステージとする。各看護領域の科目を2年次から3年次に配置し、講義、演習を同時期に開講することで知識と技術がどう結びつくかを効率的に学んだ後、実習において実践能力を修得する。小児看護学では主に新生児・乳幼児と家族、児童期・学童期・思春期の健康課題に対して、母性看護学では主に妊産婦の健康課題に対して、成人看護学では成人期の健康課題に対して、老年看護学では主に加齢に伴う健康課題に対して、看護ケアが提供できる実践能力を育成する。(開講年次：2・3年)

<看護ケア能力を拡げるステージ>

看護実践能力を臨床から地域へ広げる意識を強く持たせるために「看護ケア能力を広げる」ステージを設ける。そのため、地域・在宅看護論と看護の統合、そして公衆衛生看護学に係る科目は2年次から4年次にかけて継続的に開講し、ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力を長期的な視野で育成する。なお、保健師選択者は選択科目の公衆衛生看護学に関する講義、演習、実習の9科目18単位を必修科目とする。

(開講年次：2・3・4年)

<看護の未来を共創するステージ>

最後の学びのステージとして、看護学の伝承から発展をめざし、学生が主体となって、看護の未来を教員と共に創る学びを充実させていく。このステージでは、必修科目に「研究方法論」「卒業研究」を配置し、教員の指導のもと、4年間の学びや実習を通じて発見した課題や関心をテーマとして研究し、卒業論文を作成、発表する。また、選択科目には、他の医療職の役割と連携を学ぶ「チーム医療論」や外国人患者への対応法を学ぶ「看護と異文化理解」、各教員が専門とする具体的な看護スキルを学生に獲得させ、学生が自信をもって実践的な看護専門職業人として巣立っていけることを目的とした「看護熟練の技」と「看護未来創出」を設け、これらの科目から4単位以上を選択必修とする(開講年次：4年)。

成績評価は、各科目の到達目標に基づいて、厳格に行う。各科目の学修成果は、定期試験、中間試験、レポート、発表等で評価することとし、その評価方法の詳細については、授業内容の詳細とあわせてシラバスに記載する。科目によっては、実習先等の成績を参考に成績評価を行うことがある。

入学者の受入れに関する方針(公表方法：インターネット(本学ホームページ))

<https://www.komatsu-u.ac.jp/medical/kango/policy/#admission>

(概要)

【求める学生像】

本学科の設置の目的、教育理念と教育目標に共感し、次に示した3つのすべてを併せ持つ学生を求める。

(知識・技能)

1. 看護学として必要とされる専門知識・技術を学ぶための基礎学力を持った人
(思考力・判断力・表現力)
2. 人々の営みや健康問題に関心を持ち、看護師または保健師として地域社会の医療・保健・福祉分野の発展に貢献しようと努力する人
(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
3. 相手の立場に立ち、思いやりをもって接することができ、様々な人々と協力できる人

【入学までに身につけておいてほしいこと】

1. 高等学校で学ぶ諸科目に関する高い基礎学力
看護学は人々の命と健康を支える学問である。自然科学(生物、また化学、物理も学んでおくと望ましい)と、人の営みの理解につながる人文・社会の幅広い知識を積極的に学び、入学後に学習する生命の構造や機能、疾患のメカニズム、薬物の作用などを理解していくための基礎的な学力を備えておくことが求められる。また、看護は多様な人々との連携・協働が大切となるため、他者とのコミュニケーション能力と語学力につながる国語と外国語の学習が求められる。
2. 他者の価値観を理解し、協力する姿勢
保健・医療・福祉の実践はチームで取り組むため、他者の価値観を理解し、協力して取り組む姿勢が求められる。また、他者の価値観や立場を理解しながら、自身の考え

を適切に伝えることができる力の基礎として、考えを整理し表現する習慣を身につけておくことが望ましい。

3. 主体的・論理的に探究する学習習慣

看護専門職として生涯にわたり主体的に学習を継続することが重要である。疑問を解決するために自ら進んで調べ、理解できるまで学習に取り組む粘り強い姿勢と、知識を獲得し深めるための学習習慣、および知識を活用し論理的に考える習慣を身につけることが望ましい。

【入学者選抜の方針】

〔一般選抜（前期日程）〕

- 1) 大学入学共通テストでは、国語、地理歴史・公民、数学、理科、および外国語を課して、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価する。
- 2) 個別試験では、面接（集団）を課して、医療・看護専門職業人をめざす者としての意欲や適性、人間関係能力等を評定し、それらを総合的に評価する。
- 3) 調査書は、履修状況・学業成績等を確認するための資料及び面接の参考資料とする。

〔一般選抜（中期日程）〕

- 1) 大学入学共通テストでは、数学、理科、および外国語を課して、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価する。
- 2) 個別試験では、面接（集団）を課して、医療・看護専門職業人をめざす者としての意欲や適性、人間関係能力等を評定し、それらを総合的に評価する。
- 3) 調査書は、履修状況・学業成績等を確認するための資料及び面接の参考資料とする。

〔学校推薦型選抜（地域推薦）〕

- 1) 地域の優秀な人材を育て、磨き、地域社会へ輩出することを目的として実施する。
- 2) 面接（個人）を課して、医療・看護専門職業人をめざす者としての意欲や適性、人間関係能力等を評定し、それらを総合的に評価する。
- 3) 調査書、推薦書及び志願理由書は、履修状況・学業成績等を確認するための資料及び面接の参考資料とする。

〔学校推薦型選抜（一般推薦）〕

- 1) 学力のみでは測ることのできない多様性を備えた学生の確保を目的として実施する。
- 2) 大学入学共通テストでは、数学および外国語を課して、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価する。
- 3) 個別試験では、面接（個人）を課して、医療・看護専門職業人をめざす者としての意欲や適性、人間関係能力等を評定し、それらを総合的に評価する。
- 4) 調査書、推薦書及び志願理由書は、履修状況・学業成績等を確認するための資料及び面接の参考資料とする。

〔社会人選抜〕

- 1) 個別試験として、面接（個人）と小論文を行う。面接（個人）では、多面的な質問を行い、勉学意欲と資質・適性を評価する。小論文では、人間、社会、健康、自然科学等に関する課題について、論述することを求める。
- 2) 調査書、志願理由書は、履修状況・学業成績等を確認するための資料及び面接の参考資料とする。

学部等名 保健医療学部 臨床工学科

教育研究上の目的（公表方法：インターネット（本学ホームページ））

<https://www.komatsu-u.ac.jp/about/introduction/>

(概要) 大学の教育研究上の目的(学則第1条) 公立小松大学は、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究することにより、地域と世界で活躍する人間性豊かなグローバル人材を育成するとともに、地域との共創による教育研究を通じ、地域への貢献と社会の発展に寄与することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：インターネット（本学ホームページ）） https://www.komatsu-u.ac.jp/medical/rinsyo/policy/#diploma
(概要) 卒業までに所定の単位を修得し、本学科の養成する人材像に掲げる次の能力を修得した者に、学士（臨床工学）を授与する。 ○医療従事者としての役割を理解し、人の生命と関わることへの責任感と倫理観を有している。 ○臨床工学技士として必要な医学、工学に関する専門基礎知識を有している。 ○臨床工学技士が使用する医療機器の構造と操作・保守・点検の知識と能力を有している。 ○生命維持管理装置の安全で適切な取り扱いに関する知識、能力を有している。 ○チーム医療の一員として、他の医療専門職の役割を理解し、協力して患者の視点に立った医療の実践に取り組むことができる。 ○地域医療の現状や課題を的確に把握し、その課題解決に取り組むための知識、思考力を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：インターネット（本学ホームページ）） https://www.komatsu-u.ac.jp/medical/rinsyo/policy/#curriculum
(概要) より安全で的確な医療技術の持続的提供と、社会に対する幅広い視野をもち、地域における医療・保健・福祉の活動に貢献できる基本的能力を持つ臨床工学技士を育成することを目的として、以下の方針に基づき科目を配置し、教育課程を設定する。 ○臨床工学技士に必要な医学の基礎知識を修得する。 ○臨床工学技士に必要な理工学の基礎知識、能力を修得する。 ○安心して安全な医療・保健・福祉を実践するための臨床工学技術を修得する。 ○生命維持管理装置及び医用治療機器などの原理と操作、保守、点検に関する知識と能力を修得する。 ○患者にとって安全で効果的な医療の提供と地域の医療・保健・福祉の課題解決に取り組むことが出来る能力、思考力を修得する。 成績評価は、各科目の到達目標に基づいて、厳格に行う。各科目の学修成果は、定期試験、中間試験、レポート、発表等で評価することとし、その評価方法の詳細については、授業内容の詳細とあわせてシラバスに記載する。科目によっては、実習先等の成績を参考に成績評価を行うことがある。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：インターネット（本学ホームページ）） https://www.komatsu-u.ac.jp/medical/rinsyo/policy/#admission

(概要)

【求める学生像】

本学科の教育理念及び教育目標に共感し、本学科を成長の場としたいと願う次のような学生を求める。

(知識・技能)

1. 臨床工学を学ぶための理数系科目の基礎学力と、医療に関する高い学修意欲を有する人

(思考力・判断力・表現力)

2. 医療およびその関連分野の事象や課題を論理的にとらえ、それらに対する自分の考えを表現できる人

(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

3. 人の命に対して真摯に向き合い、病を抱える人の回復のために自らの持つ力を最大限に発揮して取り組もうとする人

4. 医療専門職の一員として、関連する医療職種を理解し、チーム医療や地域医療に貢献のできる資質を有する人

【入学までに身につけておいてほしいこと】

1. 高等学校の教育課程で学ぶ諸科目の堅固な基礎学力
高等学校の教育課程で学ぶ理科と数学の知識は科学的な視点で事象を理解するために必要である。また、国語と英語の能力は、社会の様々な情報の収集、発信、および記述のために求められる。

2. 人間の生命や社会活動に関する事象を主体的・論理的に探究する姿勢
医療およびその関連領域において、課題に対処していくため、または知識を深めていくために、自ら知識を収集し道筋を立てて考える姿勢が求められる。

3. 他者の価値観を理解し、常に温かな配慮をもって他者と接する姿勢
医療・保健・福祉の分野では、各医療専門職の連携（チーム医療）が、高度化・細分化した医療を適切に提供するために求められている。このチーム医療の観点から、他者と協働して物事に取組む姿勢が重要となる。

【入学者選抜の方針】

[一般選抜（前期日程）]

1) 大学入学共通テストでは、数学、理科、外国語、地理歴史・公民、および国語を課して、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価する。

2) 個別試験では、人間、社会、健康、自然科学等に関する課題について論述することを求める小論文を課して、医療またはその関連分野を学ぶための論理的思考力と文章表現能力を評価する。また、面接試験を課して、医療またはその関連分野に携わる者としての適性を総合的に評価する。

[一般選抜（中期日程）]

1) 大学入学共通テストでは、数学、理科、および外国語を課して、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価する。

2) 個別試験では、面接試験を課して、医療またはその関連分野に携わる者としての適性を総合的に評価する。

[学校推薦型選抜（地域推薦）]

1) 地域の優秀な人材を育て、磨き、地域社会へ輩出することを目的として実施する。

2) 調査書、推薦書、志願理由書の出願書類審査、および面接試験により学習意欲や能力を総合的に判定する。

3) 面接試験では、医療またはその関連分野に携わる者としての適性を総合的に評価する。

〔学校推薦型選抜（一般推薦）〕

- 1) 大学入学共通テストでは、数学および外国語を課して、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価する。
- 2) 個別試験では、面接試験を課して、医療またはその関連分野に携わる者としての適性を総合的に評価する。

〔社会人選抜〕

- 1) 個別試験では、人間、社会、健康、自然科学等に関する課題について論述することを求める小論文を課して、医療またはその関連分野を学ぶための論理的思考力と文章表現能力を評価する。また、面接試験を課して、医療またはその関連分野に携わる者としての適性を総合的に評価する。

学部等名 国際文化交流学部 国際文化交流学科

教育研究上の目的（公表方法：インターネット（本学ホームページ））

<https://www.komatsu-u.ac.jp/about/introduction/>

（概要）

大学の教育研究上の目的(学則第1条)

公立小松大学は、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究することにより、地域と世界で活躍する人間性豊かなグローバル人材を育成するとともに、地域との共創による教育研究を通じ、地域への貢献と社会の発展に寄与することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：インターネット（本学ホームページ））

<https://www.komatsu-u.ac.jp/cultural/policy/#diploma>

（概要）

卒業までに所定の単位を修得し、本学科の養成する人材像に基づき、以下の項目にあげる学科共通の能力を修得するとともに、それぞれのコースごとに求められる能力を獲得した者に、学位（国際文化学）を授与する。

○地域貢献のための基礎力

南加賀地域の歴史と文化を理解し、地域経済と観光文化資源の活用に関する基礎的知識を習得している。

○グローバル人材としての素養

国際社会及びわが国の政治、経済、歴史、言語、文化等に関する豊かな知識と事象に対する洞察力を習得している。

○外国語能力

国際交流のための基礎となる外国語能力を学び、自己表現できる能力を習得している。

○社会への成果還元力

学習成果を生かして、観光振興、地域創生、国際交流に求められる企画・情報収集・分析・問題解決の各レベルに関する能力を身につけるとともに、コミュニケーション力と情報発信力を習得している。

【国際観光・地域創生コース】

観光をめぐる国際的な展開を理解するとともに、地域経済の仕組みと企業、地方自治体等における地域創生のための取り組みを学び、調査活動をプレゼンし、情報発信できる能力を習得している。

【グローバルスタディーズコース】

外国語能力の基礎の上に、アジアを中心とする世界各地の政治、経済の仕組みと歴史、言語、文化に関する知識を身につけ、国際交流のための調査・分析能力と論理的な自己表現能力を習得している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：インターネット（本学ホームページ））<https://www.komatsu-u.ac.jp/cultural/policy/#curriculum>

（概要）

「国際社会に対する知識と国際感覚を備え、強い人間力と豊かな知性・感性をもって地域社会の振興と我が国の持続的発展に貢献できる人材を育成する」という学部教育理念に基づき、ディプロマ・ポリシーに掲げる多様な人材を地域社会と企業に送り出すために、段階的履修を通じて一つの専門に偏らぬ学習ができるカリキュラム構成とする。

また、CAP制の採用と課題解決型のアクティブラーニングによって、学生の1授業当たりの学習時間と授業効果を高め、4年次後期までしっかりと授業に集中させる。

○基礎力の形成

- ・1年次は、導入科目によって、本学科で学ぶ意義を理解し、一般教育科目によって幅広い素養を身につける。

- ・2年次は、国際社会と地域社会についての基礎知識と専門分野へのアプローチの方法を学ぶ。

○外国語能力の形成

- ・1年次から3・4年次まで、英語、中国語を継続的、段階的に学習し、TOEICなどの検定試験によって到達段階を確認する。

○応用・実践力の形成

- ・3・4年次開講の演習、海外での語学研修、異文化体験実習及び国内での地域実習、インターンシップ等を通じて、異文化対応能力や地域からの発信能力を身につける。

また、卒業論文執筆のプロセスを通じて調査、プレゼン能力等の向上を図る。

○地域の国際化を射程に入れた地域活性化や町づくりのための仕組みについて、観光という視点から考え、理解を深める。

○中国・台湾、ASEAN 地域から中東及び旧ソ連圏に至る国際政治、経済、社会などについて幅広く学ぶ。

○言語そのものの分析や、文化や社会との関わりの理解と言語による文化的創造について幅広く学ぶ。

成績評価は、各科目の到達目標に基づいて、厳格に行う。各科目の学修成果は、定期試験、中間試験、レポート、発表等で評価することとし、その評価方法の詳細については、授業内容の詳細とあわせてシラバスに記載する。科目によっては、実習先等の成績を参考に成績評価を行うことがある。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：インターネット（本学ホームページ））
<https://www.komatsu-u.ac.jp/cultural/policy/#admission>

（概要）

【求める学生像】

国際文化交流学科は国際的視野を身につけ、それを地域貢献に活かすことを目指す人文社会系の学科であり、本学科の教育理念及び教育目標に基づいて次のような学生を求める。

(知識・技能)

1. 高等学校の教育課程で学ぶ知識・技能を幅広く、かつ高いレベルで有している人
2. 異文化社会あるいは地域社会に常に関心を持ち、情報分析や外国語などのスキルを向上させる意欲をもつ人

(思考力・判断力・表現力)

3. 社会の様々な課題について、知識や情報をもとに筋道を立てて論理的・分析的に思考し、自分の言葉で表現できる人
4. 知的探究心を持って広く社会に目を向け、柔軟な発想で物事を捕らえることができる人

(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

5. 良心と社会規範に従って、良識ある行動をとることができる人
6. 人々との交流を大切にし、常に温かな配慮を持って他者と接することができる人
7. 自らの成長のために粘り強く物事に取り組むことができる人

【入学までに身につけておいてほしいこと】

1. 高等学校の教育課程で学ぶ諸科目に関する基礎学力
高等学校で履修する科目（大学入学共通テストで課している科目）について広く理解できていることを求める。
2. 他者とのコミュニケーションとリスペクト
異文化社会と関わっていくためのコミュニケーションの道具である言葉に関するスキルを磨くことはもちろん、自分と異なる「あたりまえ」に対するリスペクトを持つことは大切である。
3. 自分を取り巻く社会への関心
国際社会でいま起こっていること、あるいは自分の身近な地域が抱える問題などに日頃から関心を持って目を向ける習慣を身につけておくこと。

【入学者選抜の方針】

[一般選抜（前期日程）]

- 1) 大学入学共通テストでは、5教科（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語）より5科目を課し、基礎学力を評価する。
- 2) 個別試験では、小論文という方法によって、以下の能力や適性を評価し、選抜を行う。
 - ・国際問題や地域の問題など、身の回りで起こっていることに常に関心を持ち、自らの考えを明確にできるか
 - ・与えられた情報をもとに筋道を立てて論理的・分析的に思考し、自分の言葉で表現できるか
 - ・英文を読んで適切に理解することができるか

[一般選抜（中期日程）]

- 1) 大学入学共通テストでは、5教科（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語）より4科目を課し、基礎学力を評価する。
- 2) 個別試験では、小論文という方法によって、以下の能力や適性を評価し、選抜を行う。
 - ・国際問題や地域の問題など、身の回りで起こっていることに常に関心を持ち、自らの考えを明確にできるか
 - ・与えられた情報をもとに筋道を立てて論理的・分析的に思考し、自分の言葉で表現できるか

[学校推薦型選抜（地域推薦）]

- 1) 個人面接によって、多面的な質問を行い、勉学意欲と資質を評価する。調査書、推薦書、志願理由書は、面接試験の参考にする。
- 2) 個別試験では、課題作文という方法によって、以下の能力や適性を評価し、選抜を行う。

--

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
生産システム 科学部	80 人	86 人	107.5%	320 人	340 人	106.3%	0 人	0 人
保健医療学部	80 人	90 人	112.5%	320 人	339 人	105.9%	0 人	0 人
国際文化交流 学部	80 人	80 人	100.0%	320 人	338 人	105.6%	0 人	0 人
合計	240 人	256 人	106.6%	960 人	1,017 人	105.9%	0 人	0 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
生産システム 科学部	75 人 (100%)	17 人 (22.7%)	56 人 (74.6%)	2 人 (2.7%)
保健医療学部	82 人 (100%)	6 人 (7.3%)	75 人 (91.5%)	1 人 (1.2%)
国際文化交流 学部	74 人 (100%)	1 人 (1.4%)	69 人 (93.2%)	4 人 (5.4%)
合計	231 人 (100%)	24 人 (10.4%)	200 人 (86.6%)	7 人 (3.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画について以下の内容を本学ホームページで公開している。 内容 ・シラバス ・学年暦 ・教育課程編成・実施の方針 ・教育課程 ・履修モデル https://www.komatsu-u.ac.jp/disclosure/ed-information/#

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たって基準に関することについて以下の内容を本学ホームページで公開している。 内容 ・成績評価の方法 ・卒業認定の方法 ・卒業要件 ・各授業の履修基準 ・授与学位 ・取得可能な資格（受験資格を含む） https://www.komatsu-u.ac.jp/disclosure/ed-information/#

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
生産システム科学部	生産システム科学科	124 単位	有	各学期 26 単位
保健医療学部	看護学科	127 単位 (保健師選択者 145 単位)	有	年間 52 単位
	臨床工学科	133 単位	有	年間 52 単位
国際文化交流学部	国際文化交流学科	127 単位	有	各学期 24 単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：インターネット（本学ホームページ） https://www.komatsu-u.ac.jp/disclosure/ed-information/#
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載 事項)
生産システム科学部	生産システム科学科(市内者)	585,800円	282,000円	50,000円	その他は実習費
	生産システム科学科(その他)	585,800円	423,000円	50,000円	その他は実習費
保健医療学部	看護学科(市内者)	585,800円	282,000円	50,000円	その他は実習費
	看護学科(その他)	585,800円	423,000円	50,000円	その他は実習費
	臨床工学科(市内者)	585,800円	282,000円	50,000円	その他は実習費
	臨床工学科(その他)	585,800円	423,000円	50,000円	その他は実習費
国際文化交流学部	国際文化交流学科(市内者)	585,800円	282,000円	0円	
	国際文化交流学科(その他)	585,800円	423,000円	0円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 大学の3キャンパスにそれぞれ附属図書館を設置し、学生の利便を図っている。また、それぞれに閲覧室、調査・相談コーナー、検索性PC、集密書架等を設け、学生の学修の支援を行っている。 キャンパス間ネットワークの活用により他の図書館での貸し出しを円滑に行うことができるように整備している。 奨学金については、日本学生支援機構奨学金、民間奨学団体及び地方公共団体を扱っている。 ヒューマンリソースコーディネーション機構(R7.4.1設置)では、障がいのある学生の修学に関する支援を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリアサポートセンターを設置し、学生のキャリア支援を行っている。 主な取り組みは以下のとおり。 (1) 学生のキャリア支援についての企画立案 (2) 学生のキャリア形成に係る相談、助言、情報提供 (3) 学生のキャリア形成に係る講座の開設、講演会等の開催 (4) キャリア支援に関する調査・研究・資料収集 (5) その他センターの目的達成に必要な業務
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 3キャンパスにそれぞれ、保健管理センターを設置し、学生が心身ともに健康な学生生活を送ることが出来るように、保健師によるけがや病気などの応急処置のほか、健康診断の実施や健康管理などを行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：インターネット(本学ホームページ) https://www.komatsu-u.ac.jp/disclosure/ed-information/# 備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F117210105417
学校名（〇〇大学 等）	公立小松大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	公立大学法人公立小松大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		113人	104人	115人
内 訳	第Ⅰ区分	57人	43人	
	（うち多子世帯）	（ 人）	（ 人）	
	第Ⅱ区分	31人	33人	
	（うち多子世帯）	（ 人）	（ 人）	
	第Ⅲ区分	20人	20人	
	（うち多子世帯）	（ 人）	（ 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	人	人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	5人	8人	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				115人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当）	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意 欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	1人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良である
ことについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたこと
により認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	8人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	5人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	0人	人	人
計	5人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。